

第 82 回 原子力安全専門委員会定例会（議事概要）

日 時：令和 7 年 2 月 21 日（金）

場 所：書面確認形式

参加委員：

鞍谷委員長、泉委員、大堀委員、片岡委員、黒崎委員、近藤委員、西本委員、
藤野委員、望月委員、山本(章)委員、山本(雅)委員、吉橋委員

議 題：

- （１）原子力発電所周辺の環境放射能調査について
 - ・令和 6 年度 第 3 四半期（10 月～12 月）報告
 - ・令和 7 年度 計画
- （２）発電所の運転・建設および廃止措置状況について
 - ・令和 6 年 12 月～令和 7 年 1 月分報告

概 要：

- 原子力発電所周辺の環境放射能調査の結果、発電所の運転および廃止措置状況について、書面にて確認。
- 資料については、次回の原子力環境安全管理協議会の場で配布予定

（原子力発電所周辺の環境放射能調査）

令和 6 年度 第 3 四半期

- ・ 県内発電所からの放射性物質の放出に起因する線量上昇は観測されなかった。
- ・ 浮遊じん放射能の連続測定の結果、いずれも天然放射能のレベルであった。
- ・ 一部の試料から過去の核実験フォールアウトが主要因と考えられるセシウム 137 が検出されたが、環境安全上問題となるレベルに比べ、はるかに低い濃度であった。

令和 7 年度 計画

- ・ 令和 6 年度と同等の調査計画である。

（発電所の運転および廃止措置状況）令和 7 年 1 月～2 月

- ・ 計画外の原子炉停止や出力抑制なし。現在、県内発電所 4 基※が運転中。
- ・ 当該期間において、安全協定に基づき報告された異常事象は「敦賀 2 号機洗たく廃液モニタタンクの腐食」の 1 件であった。現在、腐食が発生した原因を調査中。

※ 美浜発電所 3 号機、大飯発電所 3 号機、高浜発電所 1、4 号機

(主な質疑)

- C. 測定結果並び測定計画はいずれも妥当なものであることを確認した。能登半島地震の結果を考慮して、観測局並びに緊急時用観測局からの測定結果が大地震の時にも確実に取得できることの確認を行うことが望まれる。
- Q. 資料 1-3 の p. 3 の表中の「海産食品（無脊椎動物）」。「海産食品（海藻類）」の欄には調査資料数が 0 と記載されているが、これは試料を得ようとしたものの、季節や天候の関係で得られなかったということか。
- A. 「海産食品（無脊椎動物）」および「海産食品（海藻類）」については、試料採取に不具合があったということではない。
- これらの試料については、年度当初に決めた計画において、「海産食品（無脊椎動物）」 15 試料、「海産食品（海藻類）」 10 試料を採取することとしている。
- なお、採取時期については「漁獲期」としており、どの四半期に採取するかを指定しているわけではない。
- これまでの進捗状況では、第 2 四半期までに「海産食品（無脊椎動物）」 15 試料全数の採取を完了している。また「海産食品（海藻類）」についても第 2 四半期までに 7 試料の採取を終え、残る 3 試料については第 4 四半期に採取する予定である。
- このため、第 3 四半期においてはこれらの試料採取がなかったことから、調査対象外「／」とし、調査件数を「0」としている。
- C. 敦賀 2 号機洗たく廃液モニタタンクの腐食について、平成 26 年に発生した洗たく廃液モニタタンクからの漏えい事象の対策として、タンク内表面の溶接線部にエポキシ樹脂を接着させたことによるものと明らかにされている。あたらしい対策を積極的に取り入れることは推奨されるが、その際にはその影響についても入念に検討を行うことが望まれる。

以 上